

ET PTAバルーンカテーテル

再使用禁止

【警告】

1. 本品を用いた PTA は緊急の外科治療をすばやく行うことができる病院においてのみ行うこと。[患者への障害や生命に関わる有害事象が発生する場合がある。]
2. バルーンの直径は、狭窄部の近位もしくは遠位の血管の直径を超えないもので行うこと。[血管損傷、血管破裂等の有害事象を引き起こすおそれがある。]

【禁忌・禁止】

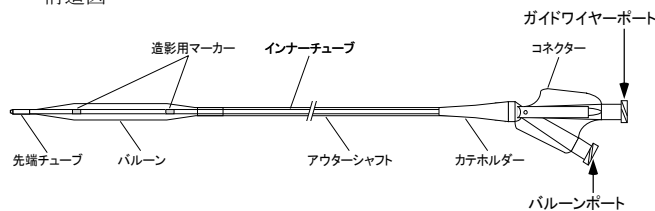
1. 再使用禁止
2. 再滅菌禁止
3. 適用対象（患者）
本品は下記病変や血管に使用しないこと。
(1) 完全閉塞病変[血管の損傷や、カテーテルの破損につながるおそれがあるため。]
(2) 石灰化の激しい病変[カテーテルの破損、あるいはバルーンの破損や破裂につながるおそれがあるため。]
(3) 近位血管のねじれが著しい病変[血管の損傷につながるおそれがあるため。]
(4) 冠血管及び頭蓋内の脳血管[血管の損傷につながるおそれがあるため。]
4. 使用方法
(1) 本品は、有機溶剤（アルコール等）、油性造影剤と併用しないこと。[本品の樹脂素材に影響し、本品が損傷、破損等するおそれがある。また損傷、破損等により造影剤が血管内に流出する可能性がある。]

【形状・構造及び原理等】

1. 概要

本品は、コアキシャル構造をもつオーバーザワイヤータイプのバルーンカテーテルであり、先端部バルーンの膨張により血管狭窄を拡張させるディスポーザブルカテーテルである。

2. 構造 構造図



カテーテル原材料：

ポリアミド、ポリカーボネート、ポリエチレン、ポリビニルピロリドン、紫外線硬化型接着剤

製品仕様：

バルーン直径、バルーン有効長、推奨シース、カテーテル外径、カテーテル有効長、推奨ガイドワイヤー径、推奨拡張圧、最大拡張圧は本品包装のラベルに記載されている。

原理：

本品はバルーンの膨らみをコントロールすることで、狭窄性血管を拡張する。血管拡張時に切開を伴わない。

【使用目的又は効果】

経皮的血管形成術（PTA）に使用されるバルーンカテーテルであり、経皮的アプローチにより血管内の狭窄もしくは閉塞病変部位の拡張を目的として使用される。

【使用方法等】

1. カテーテルの準備

- (1) 滅菌袋からカテーテルが挿入されている外筒を取り出して下さい。
- (2) 外筒からカテーテルを静かに取り出して下さい。
- (3) カテーテル基部にあるコネクタのバルーンポートに三方活栓とシリンジを接続し、押子を引いてカテーテル内を十分に陰圧にしてから三方活栓のコックを閉じて下さい。
- (4) カテーテルからバルーン部分にある保護用ワイヤー及び保護用シース（黄緑色）2 個を遠位方向に抜き取って下さい。この保護用シース（黄緑色）はリラップツールではありません。
- (5) カテーテル基部にあるコネクタのガイドワイヤーポートに滅菌済生理食塩水を充填したシリンジを接続し、ルーメン（ガイドワイヤーの通路）を十分にフラッシュして下さい。
- (6) 20mL のシリンジに滅菌済生理食塩液と 1：1 で混合された造影剤を 3mL 充填して下さい。
- (7) カテーテル基部にあるコネクタのバルーンポートに接続された三方活栓に、シリンジを接続して下さい。
- (8) 三方活栓のコックを静かに開き、カテーテルシャフトとバルーン内に造影剤をゆっくり流し込んで下さい。
- (9) シリンジの押子を引き、バルーン及びカテーテルシャフト内の空気を十分に抜き取って下さい。
- (10) 三方活栓のコックを閉じて下さい。
- (11) シリンジ内の空気を抜いて下さい。
- (12) 空気を完全に除去できるまで(9)から(11)を繰り返して下さい。
- (13) バルーン内を陰圧にして、三方活栓を閉じて下さい。

2. カテーテルの挿入及びバルーンの拡張

- (1) 本品を使用するにあたって併用するシースイントロデューサー及びガイドワイヤーのサイズを、パッケージラベルでご確認下さい。
- (2) セルジニング法により血管内にシースイントロデューサーを挿入し、留置して下さい。
- (3) シースイントロデューサーにガイドワイヤーを挿入し、目的部位まで挿通させて下さい。
- (4) バルーンカテーテルをガイドワイヤーに沿って慎重にシースに挿入して下さい。抵抗を感じた場合は抵抗の原因を確認して下さい。
- (5) カテーテルをガイドワイヤーに沿って進め、バルーン部に設けられた X 線不透過のマーカーを目安にし、バルーンの中央部が狭窄部に正しく合致したことを確認して下さい。
- (6) コネクタのバルーンポートにインフレーションデバイスを確実に取り付けして下さい。
- (7) 拡張圧を確認しながらバルーンを拡張させ、狭窄部を拡張して下さい。

3. カテーテルの抜去

- (1) カテーテルに陰圧をかけ、バルーンを完全に収縮させてから抜去して下さい。

<使用方法等に関連する使用上の注意>

- (1) バルーンの拡張液は造影剤と生理食塩水を 1:1 で混合したものを使用すること。空気またはその他の気体を用いてのバルーン拡張は絶対に行わないこと。
- (2) バルーン保護用のラッピングシースが取り外しにくい場合は、保護用ワイヤーを入れた状態のままラッピングシースに近い部分のシャフトを持ち、慎重に取り外すこと。
- (3) バルーンとカテーテルシャフト内の空気を完全に抜き取ること。万一気泡が残っている場合は、バルーンの先端を下向きにし、シリンジの内筒を引いて気泡を完全に除去すること。
- (4) バルーンが過拡張又は破裂する危険性を最小限にするために、指定の最大拡張圧を超えないこと。

- (5) 同一のカテーテルで拡張を複数回繰り返す際は、特に注意して拡張を行うこと。[バルーンの疲労等により最大拡張圧に満たない圧力でバルーンが破損する可能性がある。]
- (6) バルーンの破損やカテーテルの変形が生じる可能性があるため、必ず適切な圧力計付きインフレーションデバイスを使用すること。
- (7) シースイントロデューサーを介してカテーテルを抜去する際やカテーテルを介してガイドワイヤーを抜去する際に抵抗を感じた場合は、本品とこれらを一緒にして抜去すること。[血管の損傷や、カテーテルの破損につながるおそれがあるため。]
- (8) 本品をシースイントロデューサーを介して再挿入する際には、必要に応じてガイドワイヤーなどのサポート下にてリラップツールを使用し、バルーンの形状を整えておくこと。

【使用上の注意】

不具合・有害事象

(1) 不具合

以下のような不具合が発生するおそれがある。

＜重大な不具合＞

- ・シャフトの破断
- ・カテーテルシャフトのキンク
- ・カテーテル抜去困難
- ・バルーン拡張収縮不良
- ・バルーン破裂及び破裂に伴う断裂

(2) 有害事象

手技や患者の状態に伴い、以下のような有害事象が発生するおそれがある。有害事象が発生した場合は医師の知見に基づき、適切な回復処置を行うこと。

＜重大な有害事象＞

- ・血管穿孔/解離
- ・出血
- ・血腫
- ・血管の攣縮
- ・全身的な塞栓形成
- ・死亡
- ・低血圧
- ・心内膜炎
- ・血管内血栓症
- ・疼痛及び圧痛
- ・敗血症/感染症
- ・不整脈
- ・血栓塞栓症状の出現
- ・発熱反応
- ・気胸や血胸
- ・動静脈瘻
- ・血管破裂
- ・一時的な血行動態の悪化
- ・破断したカテーテルや、破裂したバルーンの破片が血管内に遺残する。または当該破片による血管塞栓

【保管方法及び有効期間等】

有効期間

本品包装ラベルに記載

[自己認証(当社データ)により設定]

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

＜製造販売業者＞

有限会社エンドテック

電話番号：0568-89-8521

＜販売業者＞

ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社

電話番号：03-6853-1000